

リーディングDXスクール事業【実践事例】

大阪市立住吉小学校（大阪市）

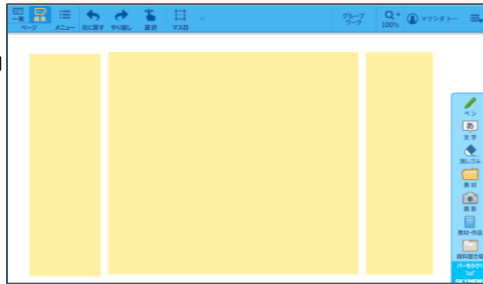
【取組内容①】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた協働学習支援ツールの活用

クラウド上で作文を共有することで、複数人で同時に推敲

3年 国語「話したいな、わたしの好きな時間」

事前準備として

学習支援ソフトに「はじめ」「中」「終わり」を記入するための付箋(縦書き)を添付



児童の反応



話の中心が伝わる文章になるように、もらったアドバイスをもとに、書き直すことができたよ。

発表に向けて・・・

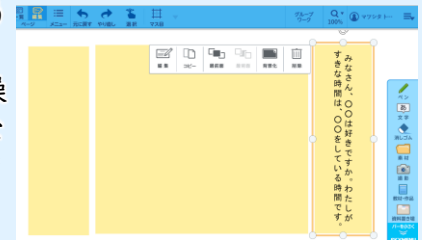
書き直した文章は、相手に伝わるように、話し方を工夫して録音し、繰り返し練習します。班の友だちにアドバイス等をもって文章を推敲したため、自信をもって発表することができました。



内容のまとまりを意識しながら、文章の構成を推敲

1 入力方法の見本をいつでも確認

冒頭部分の「はじめ」には、どのような内容の文章を書けばよいか、児童と一緒に考えながら、具体的な操作方法と一緒に伝えます。参考になる文章をワークシートと一緒に配付することで、いつでも参照しながら進められるようにします。



2 他者参照で協働的な学びへ

ノートに書き出した内容を基に、話の中心が伝わるように文章を構成し、クラウド上に提出します。他者参照ができるため、自分の文章を推敲するとともに、友だちの文章へのアドバイスを考えます。



3 リアルタイムに文章を推敲

個々の記入内容を順番に読み合いながら改善点について伝え合いました。作成者は友だちからのアドバイスを基にリアルタイムに打ち直すことで、細かいところも確認しながら修正することができました。

